

松本市および安曇野市で確認されたアリアケスミレ

Viola betonicifolia Sm. var. *albescens* (Nakai) F.Maek. et T.Hashim. の報告

松田 貴子*・腰原 正己**・藤田 淳一***

はじめに

アリアケスミレ *Viola betonicifolia* Sm. var. *albescens* (Nakai) F.Maek. et T.Hashim. は、スミレ科スミレ属の植物で、国内では本州～九州、国外では朝鮮半島から中国東北部に産する。西日本では人里でよく見られるスミレ類の一種で、耕作地周辺や河川敷や公園などに生育し、日当たりの良い湿り気のあるところを好む。

アリアケスミレに似たシロスミレ *Viola patrinii* DC. は、全県に分布し、主に標高 1,000 m 以上の草原に生育する。アリアケスミレは葉身が葉柄よりも長いことや、シロスミレのように葉を垂直に立てずほぼ水平に広げること、唇弁の筋が繊細で多いことなどの形態から、シロスミレと見分けられる。また、市街地や農耕地など生育環境がよく似たスミレ *Viola mandshurica* W.Becker の白花品のうち、花卉に紫色の筋が出る品種シロガネスミレ f. *hasegawae* Hiyama とは形態が酷似するものの、アリアケスミレの方が葉に丸みがあることや、距が丸く少し膨出することから見分けられる。特にさく葉標本の場合、花の色素が失われていることが多いため、葉や距の形から判断すると良い。

確認状況

アリアケスミレは 1999 年 4 月 22 日旧穂高町小岩岳（標高 600 m）で藤原陸夫によって採集された標本が長野県環境保全研究所（NAC）に存在する（NAC80936）。採集当初のラベルではスミレ属 sp. とされていたが、藤田によりアリアケスミレと同定された。

その後 2009 年に腰原が安曇野市明科で生育を確認し報告している（出典：塩尻市立自然博物館紀要 2009 第 12 号、2010）。公園内のツツジ類の植え

込みに生育しており、他県から運ばれたツツジの根元に付いて一緒に植え込まれた可能性が高いと考えられた。2017 年に同じ場所を踏査したが、生育を確認することはできなかった。

また 2010 年あたりから腰原が安曇野市有明（標高 680 m）において生育を確認していた。1999 年の採集地からおよそ 1.5 km 北に位置する場所である。2017 年に松田が改めて踏査したところ、およそ 300 m × 300 m の範囲一帯に分布していた。密度の高い生育地では 1 m² あたり約 15 株の開花個体を確認した。生育地の多くは耕作地の畔などの草地環境であり、一部はコンクリート側溝の隙間にも生育していた。

2017 年 4 月 21 日には、松本市蟻ヶ崎アルプス公園内（標高 740 m）において、藤田によって生育が確認された。生育環境は、10 年ほど前に造成された庭園の巨石積み周辺のコンクリートの隙間で、20 個体程度が生育していた。

5 月 2 日には安曇野市中房温泉のアスファルト舗装のロータリー周辺（標高 1,448 m）において、松田によって生育が確認された。生育地は山地帯上部～亜高山帯下部にあたり、アリアケスミレの本来の生育地とは異なると考えられた。中房温泉の百瀬孝仁氏にヒアリングしたところ、15～16 年前にアスファルト舗装の工事を行っており、請負業者によって土壌が持ち込まれた可能性があるとのことであった。またロータリー周辺一帯は地熱が高く、アリアケスミレの生育を可能にしている大きな要因となっていると考えられた。アリアケスミレはこのロータリー周辺にのみ生育しており、分布の広がりは見られなかった。

標本情報

穂高町（現：安曇野市）小岩岳（標高 600 m）

1999 年 4 月 22 日 採集者：藤原陸夫 同定者：藤田淳一 標本番号 NAC80936

松本市蟻ヶ崎アルプス公園（標高 740 m）2017 年 4 月 21 日 採集者：藤田淳一 同定者：藤

* 安曇野市豊科郷土博物館 〒 399-8205 長野県安曇野市豊科 4289-8

** 腰原正己 〒 399-8302 長野県安曇野市穂高北穂高 2766

*** 藤田淳一 〒 390-0313 長野県松本市岡田下岡田 243-2 サープラスワンアルプ 203

田 淳一 標本番号 TCCN17-0043 (個人)
NAC185838

安曇野市穂高有明 (標高 661m) 2017 年 4 月 23
日 採集者: 松田貴子 同定者: 松田貴子 標本
番号 豊科郷土博物館 10097

安曇野市穂高有明 中房温泉 (標高 1447 m)
2017 年 5 月 11 日 採集者: 松田貴子 同定者:
松田貴子 標本番号 豊科郷土博物館 10099

おわりに

アリアケスミレは、長野県の隣県である富山県、岐阜県、愛知県では田畑の畦畔や市街地のコンクリートの隙間に普通にみられる。今回確認された明科や松本、中房温泉の確認例のように人為的な改変や植栽によって定着した可能性が高いものもあるが、本来市街地等の人里に生育する種であるため、

もともと生育していたものが認識されていなかったという可能性も否定できない。今後注意して観察すれば、他の地域で確認される可能性もあるだろう。また安曇野市有明のアリアケスミレはまとまった面積で個体数も多いため、分布が広がることも考えられる。観察を継続したい。

引用文献

- いがりまさし. 2012. 増補改訂日本のスミレ (山溪ハンディ図鑑. 山と溪谷社
大橋他編. 2016. 改訂新版 日本の野生植物 3. 平凡社
米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名ー学名インデックス」 (YList), <http://ylist.info> (2018 年 1 月 31 日確認)